

令和7年度（第37回） 東海市沖繩市中學生交流事業



— 事業報告書 —



夏季交流 : 令和 7年 6月3日・10日・12日・17日・20日・27日

冬季交流 : 令和 7年 12月 5日 ~ 令和 7年 12月 8日



沖繩市教育委員会

目 次

〈1〉 東海市沖縄市中学生交流事業を終えて			
	沖縄市交流団 団長		
	山本 薫（越来中学校長）	……	P1
〈2〉 交流事業内容			
事業要綱		……	P2～3
交流日程		……	P4～P5
沖縄市交流団名簿		……	P6
交流事業の記録		……	P7
〈3〉 冬季交流レポート		……	P8
【生徒レポート】			
越来中学校	金城 琉音	……	P9～P10
	安座間 一花	……	P11～P12
コザ中学校	大道 琉之介	……	P13～P14
	仲 宗 根 星	……	P15
山内中学校	西村 海 琉子	……	P16～P17
	上原 果 子	……	P18
美里中学校	島袋 徳 真	……	P19～P21
	上原 梨 夢	……	P22
美東中学校	仲間 大 翔	……	P23～P24
	宮里 璃 紅	……	P25～P26
安慶田中学校	安里 奏 大	……	P27～P28
	東恩納 愛 紗	……	P29
宮里中学校	當 眞 結 嗣	……	P30～P31
	新 垣 穂 乃	……	P32～P33
沖縄東中学校	久 田 一 汰	……	P34～P35
	名 城 陽 毬	……	P36～P37
【引率レポート】			
越来中学校 引率教諭	野 島 隆 太	……	P38
〈4〉 写真で見る交流の記録		……	P39～P52

東海市沖繩市中学生冬季交流事業を終えて

団長 沖繩市立越来中学校 山本 薫

令和7年度東海市沖繩市冬季交流事業に、沖繩市交流団（交流生徒16名、引率者4名、計20名）が令和7年12月5日（金）から3泊4日の日程で、参加させていただきました。交流生徒たちは東海市の自然や歴史、文化等事前学習や「歓迎の会」の余興エイサー練習に積極的に取り組み、仲間意識を高めて、出発式を迎えました。沖繩市教育委員会高江洲実教育長ほか関係者の皆様に激励いただき見送られ、交流団は現地での出会いや交流等東海市の魅力を体験できるこの貴重な機会にわくわく感を持って出発しました。

愛知県に到着してからの4日間の交流体験は豊かな学びで満たされた時間でした。東海市団長校加木屋中学校様・市教育委員会様との歓迎式、東海市役所表敬訪問では寒さの中、市役所職員が拍手で熱烈に歓迎していただき大変感銘を受けました。市長室では東海市長花田勝重様はじめ市議会議長北川明夫様、市教育委員会教育長鈴木俊二様ほか関係者の皆様にお出迎えをいただき、温かい歓迎のお言葉や本事業への思いや期待を語り合い交流が始まりました。創造の杜で行われた歓迎の会では東海市交流団と対面後、美味しいお食事をいただきながら互いの余興を披露し楽しい時間を共有して交流団の輪が一つになりました。2日目は世界に誇る日本製鉄名古屋製鉄所見学、伝統文化が力強く継承されている大田まつり山車蔵見学と山車担ぎ体験、日本最大級のしあわせ村の大仏見学、紅葉に魅せられ感動体験、東海市芸術劇場見学、沖繩広場・米沢対面の像見学、東海市出身の江戸時代の学者細井平洲先生の歴史や教えが顕彰されている平洲記念館見学等で東海市の自然と歴史、文化について学びました。3日目は名古屋城散策、東海市交流団による計画で班ごとの名古屋分散研修を行いました。夕食・お別れ式では両交流団で充実した交流をふり返り、互いの友情を大切にしていくことや交流体験を今後の人生に生かしていくこと等を熱く語り合いました。最終日は加木屋中学校と名和中学校に分かれての学校訪問で両校から温かいおもてなしをいただき、東海市クイズやレクリエーション等で交流を深め有意義で楽しい思い出となりました。4日間の充実した交流を通して団員一人一人が「出会い」に感動し、互いの表現活動に刺激を受けて意欲的に参加・協力し学び高め合う等素晴らしい体験ができ、ひとまわり成長して交流を無事に終えられたことに心より感謝申し上げます。

今年度で東海市沖繩市中学生冬季交流事業は第37回の歴史を刻みました。今回団長として本事業に参加させていただき東海市交流関係者の皆様や地域の皆様との温かく充実した交流から、これまで脈々と引き継がれてきた姉妹都市の絆は、互いの地域における交流を通して心の豊かさを育み地域を愛する人材育成の成果の積み重ねを大切にしてきた証であることを実感し大変感動しました。交流団員のみなさんが、東海市沖繩市交流の成果である「出会いと共に学び合う豊かな体験と感動」を今後の人生に生かし成長してほしいと願います。

結びに、本事業への参加の機会を与えていただきました沖繩市教育委員会、東海市諸関係機関の皆様には深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和7年度（第37回）東海市沖繩市中学生交流事業 実施要綱

1. 目的

沖繩市と愛知県東海市の中学生が相互に親善訪問して、生徒・学校間の交流を深めるとともに、姉妹都市である両市の自然・文化・歴史・産業について学習して、相互理解と広い視野を育てる。

2. 主催

沖繩市教育委員会 東海市教育委員会

3. 事業内容

本事業は、昭和60年の沖繩市教育委員会の東海市視察研修の際、旧美里村と交流のあった東海市との交流再開が話し合われ、昭和62年度から中学生交流事業として実現したものである。

交流は、相互に学校訪問し、代表生徒を中心とした交流である。夏季は沖繩市で行い、冬季は東海市で行う。

夏季・学校間交流（受入）

対 象： 愛知県東海市立中学校6校

【団長校】

沖繩市：越来中学校

東海市：加木屋中学校

【受入なし】

コザ中学校・宮里中学校

時 期： 令和7年6月3日/10日/12日/17日/20日/27日

内 容：午前9時～11時頃まで東海市立中学校の2年生を各中学校6校で受入れ、学校間交流を行う。

学校間交流の内容については、各学校で取り決めることとする。

実施日	学校名	交流相手校
6月 3日（火）	美里中学校（252人）	富木島中学校（241人）
6月 10日（火）	越来中学校（73人）	平洲中学校（147人）
6月 12日（木）	安慶田中学校（103人）	名和中学校（150人）
6月 17日（火）	沖繩東中学校（264人）	横須賀中学校（242人）
6月 20日（金）	山内中学校（141人）	上野中学校（182人）
6月 27日（金）	美東中学校（280人）	加木屋中学校（256人）

※令和7年4月現在の人数

冬季・東海市交流（代表生徒派遣）

対 象： 沖縄市立中学校 2 学年の生徒で学校長が推薦する男女 16 名

時 期： 令和 7 年 12 月 5 日（金）～12 月 8 日（月）3 泊 4 日

派遣先： 愛知県東海市

内 容： ① 市長表敬訪問 ② 学校間交流 ③ 体験学習 ④ 東海市工場見学 等
※適宜、訪問地及び沖縄市についての学習や必要な研修を行う。

※冬季交流は毎年 12 月の第 1 日曜日を含む直前の金曜日出発、直後の月曜日帰沖です。

学校行事、特に 2 学年修学旅行と日程が重ならないように要調整をお願いします。

4. 冬季交流の派遣費用について

(1) 派遣費用（交通費）の 2 分の 1 の金額を保護者負担金とし、2 分の 1 を市負担とする。

【参考】

※保護者負担金は、那覇空港と中部国際空港の往復航空券料金の半額分、概ね 2 万円程度。
（航空運賃によって変動する）

※交流期間内の宿泊先、食事、現地移動手段などに係る費用については、東海市教育委員会にて負担されるので、保護者負担金は発生しない。

(2) 準要保護及び要保護世帯の生徒は、派遣費用（交通費）の保護者負担金を免除とし、市が全額負担する。

(3) その他特別な理由があると教育長が認めるときは、保護者負担金を免除することができる。

(4) 派遣生徒に決定した後、自己都合による辞退や派遣生徒の取消をうけた生徒で、本事業実施においてキャンセル料が発生する場合には、全て派遣生徒の負担とする。また、すでに負担金の交付を受けている場合には、その全額を返納することとする。

(5) 天災、その他特別な理由があるキャンセル料については、市が派遣費用を負担することがある。

(6) その他、必要な経費は別途徴収する。

5. 主管課


沖縄市教育委員会 指導部 指導課

TEL 098-939-7976

FAX 098-937-3548 / 098-934-3849


E-mail kyo_sidob04@city.okinawa.lg.jp

令和7年度（2025年度）東海市沖繩市中学生交流事業 冬季日程

月日	12月5日（金） 1日目	12月6日（土） 2日目
時刻 / 日程 内容 <div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 時間に遅れないこと！ 5分前行動を！ </div>	8:40 沖繩市役所集合 1階正面玄関	6:15 起床・洗面・着替え・部屋の清掃
	8:45 ●出発式★	7:15 沖繩市交流団員集合 1階エントランス
	9:10 那覇空港へ移動（観光小型バス）	7:30 朝食（フェルシ）
	10:30 那覇空港 到着	8:00 勤労センター着（東海市交流団員合流）
	11:00 搭乗手続 *お昼は弁当・お茶を用意しています	8:15 エントランス集合
	12:00 ■那覇空港 出発  ✦JTA042便	8:30 勤労センター出発（東海市大型バス）
	14:00 中部国際空港 到着	8:50～ ●日本製鉄工場見学★ 10:45
	15:00 ●歓迎式（空港到着ロビー）★	11:00～ ●大田まつり山車蔵見学★ 12:00
	15:30 中部国際空港 出発（東海市大型バス）	12:15～ ●しあわせ村大仏見学 及び 13:30 昼食（しあわせ村じゅらく）
	16:10 勤労センター 到着 ・荷物置き、部屋割り、諸準備 等	13:45～ ●東海市芸術劇場見学 及び★ 14:45 沖繩広場・米沢対面の像見学
	16:40 勤労センター 出発	15:00～ ●平洲記念館見学★ 16:00
	17:00～ ●東海市役所表敬訪問★ 17:30 （東海市長・議長・教育長表敬）	16:15 勤労センター到着
	17:40 勤労センター 到着 東海市交流団員合流	16:15～ ○分散研修打合せ 16:30
	18:00～ ●歓迎の会（勤労センター）★ セレモニー ※自己紹介・余興等	16:30 東海市交流団員帰宅
	18:20～ 会食	17:45 勤労センター出発
	18:50～ 生徒交流 19:50	18:00～ 夕食（ハローキッド） 19:55
	20:00 東海市交流団員帰宅	20:00 勤労センター到着
	20:30 入浴・休憩	20:00～ 入浴・休憩
	21:30 ミーティング・就寝準備	21:30 ミーティング・就寝準備
	22:00 消灯・就寝	22:00 消灯・就寝
服装	制服	私服
主な持ち物	・しおり・パーランクー&パチ（男子のみ）・衣装・生徒手帳・筆記用具・デジカメ（スマホ）・薬（必要な場合）・バック・つり下げ名札	・しおり・生徒手帳・筆記用具・時計・デジカメ（スマホ）・薬（必要な場合）・バック・雨具・つり下げ名札

※★の箇所では生徒挨拶があります。

令和7年度（2025年度）東海市沖繩市中学生交流事業 冬季日程

月日	12月7日（日） 3日目		12月8日（月） 4日目	
時 刻 / 日 程 内 容	6:15	起床・洗面・着替え・部屋の清掃	6:30	起床・洗面・着替え・部屋の清掃
	7:15	沖繩市交流団員集合 1階エントランス		
	7:30	朝食（チェルシ）	7:10	朝食（視聴覚室）
	8:15	勤労センター着		朝食後、最終荷物整理・部屋の清掃
	8:25	エントランス 集合	8:20	沖繩市交流団員 集合 1階エントランス
	8:30	東海市交流団員合流		※荷物を全てバスに積み込む
	8:35	勤労センター 出発（東海市のバス）	8:30	勤労センター 出発（東海市のバス）
				加木屋中・名和中へ移動
	9:15～	●名古屋城周辺観光・散策 （ガイドなし、自由見学）	9:00～	●学校訪問（加木屋中・名和中）★
			11:00	2グループに分かれて訪問する 交流内容は担当校裁量
	10:45～	●名古屋分散研修（各班の計画による） 名古屋港水族館、東山動物園 リニア鉄道館、ナゴヤドーム、 テレビ塔、大須商店街 等 ※各班で昼食	11:00	加木屋中 お迎え（東海市大型バス）
			11:25	名和中 お迎え（東海市大型バス） 中部国際空港へ
			12:25	中部国際空港 到着 昼食（中部国際空港）
			14:20	搭乗手続き
			14:30	●中部国際空港 出発 中部国際⇒那覇 +ANA309便
			16:45	勤労センター 到着
		17:15	勤労センター 出発	
		17:30～	●夕食・お別れ式（朱紅）★	
		19:00		
		19:15	東勤労センター 到着 東海市交流団員とはここで別れ	
		19:30～	入浴・休憩・荷物整理	
		21:20	※荷物整理、部屋の整理整頓は 今晚中に行うこと！	
		21:30	ミーティング・就寝準備	
		22:00	消灯・就寝	
			16:55	那覇空港 到着
			17:30	那覇空港 出発
			18:50	沖繩市役所 到着
			19:00	解散式★ ※ 保護者は18:45までに市役所1階へ 集合をお願いします。 ※ 到着次第、解散します 時間が前後する場合があります。 ご了承ください。
			19:05	解散
				
時間 に 遅 れ な い こ と！ 5 分 前 行 動 を！				
服装	私服		制服	
主な 持ち物	・しおり・生徒手帳・筆記用具・時計・デジカメ（スマホ）・薬（必要な場合）・バック・雨具・つり下げ名札・小遣い・研修費（当日配布）		・しおり・生徒手帳・デジカメ（スマホ） ・薬（必要な場合）・バック・つり下げ名札	

※★の箇所が生徒挨拶があります。

令和7年度 東海市沖縄市中学生交流事業 交流団員名簿

合計20名

学校名	番号	生徒氏名
越来中学校	1	キンジョウ リウト 金城 琉音
	2	アザマ イチカ 安座間 一花
コザ中学校	3	オオミチ リュウノスケ 大道 琉之介
	4	ナカソネ セイ 仲宗根 星
山内中学校	5	ニシムラ カイル 西村 海琉
	6	ウエハラ カノコ 上原 果子
美里中学校	7	シマブクロ トクマ 島袋 徳真
	8	ウエハラ リズム 上原 梨夢
美東中学校	9	ナカマ ダイト 仲間 大翔
	10	ミヤザト リク 宮里 璃紅
安慶田中学校	11	アサト カナタ 安里 奏大
	12	ヒガシオンナ アイサ 東恩納 愛紗
宮里中学校	13	トウマ ユウシ 當眞 結嗣
	14	シンガキ ホノ 新垣 穂乃
沖縄東中学校	15	クダ イチタ 久田 一汰
	16	ナシロ ヒマリ 名城 陽毬
引率者	17	ヤマモト カオル 山本 薫
	18	ノジマ リュウタ 野島 隆太
	19	イシガキ サネツグ 石垣 実嗣
	20	キンジョウ ユマ 金城 友麻

東海市・沖縄市中学生交流事業の記録

[交流年度・交流人数]

回		派遣人数		受入人数		団長校
1	昭和 62 年	引率	4 人 生徒 12 人	引率	4 人 生徒 12 人	山内中
2	昭和 63 年	引率	4 人 生徒 12 人	引率	4 人 生徒 12 人	美東中
3	平成 元 年	引率	3 人 生徒 12 人	引率	4 人 生徒 12 人	
4	平成 2 年	引率	5 人 生徒 12 人	引率	5 人 生徒 12 人	コザ中
5	平成 3 年	引率	5 人 生徒 14 人	引率	5 人 生徒 12 人	越来中
6	平成 4 年	引率	5 人 生徒 14 人	引率	5 人 生徒 12 人	美里中
7	平成 5 年	引率	5 人 生徒 14 人	引率	5 人 生徒 12 人	コザ中
8	平成 6 年	引率	5 人 生徒 14 人	引率	5 人 生徒 12 人	宮里中
9	平成 7 年	引率	4 人 生徒 14 人	引率	6 人 生徒 12 人	越来中
10	平成 8 年	引率	4 人 生徒 16 人	引率	5 人 生徒 16 人	安慶田中
11	平成 9 年	引率	4 人 生徒 16 人	引率	5 人 生徒 16 人	美東中
12	平成 10 年	引率	4 人 生徒 16 人	引率	5 人 生徒 16 人	山内中
13	平成 11 年	引率	4 人 生徒 16 人	引率	5 人 生徒 16 人	宮里中
14	平成 12 年	引率	4 人 生徒 16 人	引率	5 人 生徒 16 人	沖縄東中
15	平成 13 年	引率	4 人 生徒 16 人	引率	5 人 生徒 16 人	美里中
16	平成 14 年	引率	4 人 生徒 16 人	引率	5 人 生徒 16 人	コザ中
17	平成 15 年	引率	4 人 生徒 16 人	引率	5 人 生徒 16 人	沖縄東中
18	平成 16 年	引率	4 人 生徒 16 人	引率	5 人 生徒 16 人	美東中
19	平成 17 年	引率	4 人 生徒 16 人	引率	5 人 生徒 16 人	安慶田(夏) 越来(冬)
20	平成 18 年	引率	4 人 生徒 16 人	引率	5 人 生徒 16 人	安慶田中
21	平成 19 年	引率	4 人 生徒 16 人	引率	5 人 生徒 16 人	越来中
22	平成 20 年	引率	4 人 生徒 16 人	平成20年度以降は東海市6中学校が「沖縄体験学習」の一環として夏季に沖縄市を訪問し、各中学校間で学校間交流実施。 平成21年に姉妹都市締結。	山内中	
23	平成 21 年	引率	4 人 生徒 16 人		コザ中	
24	平成 22 年	引率	4 人 生徒 16 人		美東中	
25	平成 23 年	引率	4 人 生徒 16 人		美里中	
26	平成 24 年	引率	4 人 生徒 16 人		宮里中	
27	平成 25 年	引率	4 人 生徒 16 人		沖縄東中	
28	平成 26 年	引率	4 人 生徒 16 人		安慶田中(指導次長が代理)	
29	平成 27 年	引率	4 人 生徒 16 人		越来中	
30	平成 28 年	引率	4 人 生徒 16 人		山内中	
31	平成 29 年	引率	4 人 生徒 16 人		コザ中	
32	平成 30 年	引率	4 人 生徒 16 人		美里中	
33	平成 31 年	引率	4 人 生徒 16 人		美東中	
34	令和 2 年	～コロナにより交流事業無し～				
35	令和 3 年					
36	令和 4 年	引率	4 人 生徒 12 人		宮里中	
37	令和 5 年	引率	4 人 生徒 16 人		沖縄東中	
38	令和 6 年	引率	4 人 生徒 14 人		安慶田中	
39	令和 7 年	引率	4 人 生徒 16 人		越来中	
合計		引率	152 人 生徒 560 人			

※令和2.3年は新型コロナウイルス感染症感染拡大の為、事業中止

※令和6年は姉妹都市提携15周年



冬季交流 ～派遣生徒報告書～



日本製鉄工場見学にて



冬季交流を通して感じたこと

越来中学校 2年 金城 琉音

東海市沖繩市中学生交流事業を通して、私は沖繩市と東海市の気候や文化の違いを強く感じました。その中で、特に心に残っていることが三つあります。

一つ目は、気候の違いです。沖繩市と東海市では気温が10℃以上も違い、沖繩の人には想像のつかない寒さでした。沖繩県は一年中湿度の高い気候ですが、愛知県は空気が乾燥しており、実際に唇が割れたり喉が痛くなったりして、気候の違いを強く感じました。

二つ目は、食文化です。喫茶店でモーニングとしてドリンクを注文すると、トーストやゆで卵、サラダなどが無料で付いてくるという、普通では考えられないサービス精神の高い文化があります。この食文化から、愛知県の人たちはお互いのことを尊重し合い、支え合っているという温もりを感じることができました。気温は寒かったけれど、心は温まりました。

三つ目は、伝統文化です。私たちは大田まつり山車蔵を訪れ、山車についてのお話を聞くことができました。山車はおよそ三トンから六トンほどの重さがあり、中には五トンを超えるものもあると知り、とても驚きました。実際に山車に上らせてもらったり、担ぐ体験をさせてもらったりして、想像以上の重さと迫力を強く感じました。また、重い山車に人が乗り、男性八人ほどで力を合わせて担ぎながら祭りを行っていると知り、地域の人たちの団結力や、伝統を大切に受け継いでいる思いが伝わってきました。

この東海市交流では、気候や文化の違いだけでなく、東海市交流団のみなさんと一緒に過ごした時間も、私にとって大切な思い出になりました。1日目の歓迎の会では少し緊張していましたが、交流を重ねるうちに仲が深まり、社会見学や名古屋分散研修などを一緒に楽しむことができました。大須商店街での食べ歩きや、初めて地下鉄や電車に乗ったこと、沖繩では見たことのない大型ショッピングモールでの買い物など、ワクワクする体験もたくさんありました。

この交流を通して、私は人とのつながりの大切さを学ぶことができました。多くの人の支えがあって、この貴重な体験ができたことに感謝しています。今回得た経験を大切に、これからもさまざまな地域の文化に触れ、学んだことを自分の成長につなげていきたいと思います。



冬季交流を通して感じたこと

越来中学校 2年 安座間 一花

12月5日から12月8日まで、東海市沖繩市中学生交流事業として、愛知県東海市を訪問しました。12月5日の沖繩では、気温がだいたい20℃ほどでしたが、東海市では9℃と大きな差がありました。朝方には1℃くらいまで下がり、白い息が出てとても寒く感じました。

東海市は「鉄と蘭の町」と言われるほど、鉄と蘭が有名です。日本製鉄には多くの鉄をつくる工場があり、敷地がとても広く、工場内には信号や標識、鉄道も走っていました。実際にバスで町を通ると、蘭や畑が多く見られ、緑も豊かでした。

今回の交流を通して、私たちの学習テーマである「気候と食べ物の違い」について、多くのことを知ることができました。東海市では、ふきの生産が日本一です。ふきが有名になった理由は、約300年前に水が少なく米作りができなかったため、水をあまり使わないふきの栽培が広まったからだと言われているそうです。また、愛知県には、えび天、手羽先、あまみそ、きしめんなどの有名な食べ物があります。きしめんは、薄く平たい麺が特徴のうどん、ゆで時間を短くして燃料費を節約するための工夫だったとも言われています。あまみそはとても甘く、愛知県ではおでんにつけて食べられているおいしい味噌です。さらに、愛知県では飲み物を注文すると、無料でモーニングセットがついてくるサービスが一般的だそうです。サンドイッチやフルーツ、サラダなどがあり、とても豪華だと感じました。

愛知県を訪れて気づいた沖繩県との違いは、言葉、食べ物、気候と数多くありました。言葉の違いでは、なまりや言葉の意味が異なっていました。「インチキ」という言葉は、沖繩ではうらやましいときにも使いますが、愛知県では、ずるをしたときだけに使うことを知りました。また、名古屋弁で「おいしい」を「うみゃー」と言うなど、方言の違いもありました。気候の違いでは、気温だけでなく、紅葉する木や家の形の違いも見られました。沖繩ではあまり見られない三角屋根の家が多く、野良猫が屋根に登っている様子なども印象に残りました。沖繩では、季節の変化を感じるほどの紅葉が見られないため、愛知県ではイチョウやモミジの木など、きれいに色づいた木を見ることができとても感動しました。

今回の東海市沖繩市中学生交流事業を通して、新しいことに挑戦する気持ちや、多くの人に支えられていることへの感謝の気持ちをもつことができました。この経験を、これからも大切にしていきたいです。



東海市交流 冬季交流レポート

コザ中学校 2年 大道 琉之介

今回の冬季交流では、東海市の歴史や文化、産業、食べ物、沖縄との違いについて、交流や見学などを通し、たくさんのことを学ぶことができました。

まず、東海市には、「太田まつり」と言う伝統的なお祭りがあり、そのお祭りは、高さが約6mほどになる装飾された大きな「山車」を担いで、街を練り歩いたり、人形で芸を見ることができるお祭りです。このお祭りは、五穀豊穡や無病息災を願い行われていることがわかりました。

太田まつりでは、4種類の山車を見ることができ、その中の私たちが見学した里組では、からくり人形が文字を書くという他の組にはない山車でした。



歴史の面では、沖縄の首里城と愛知の名古屋城を比べて思ったことは、首里城は、赤い宮殿のようなお城に対して、名古屋は、白と青を基調とした城で、また、大きな「金のシャチホコ」があり、首里城にはない違った美しさがありました。この外見の大きな違いは、それぞれの地域の歴史が関係していることを改めて認識する機会となりました。

東海市は、「鉄のまち」と知られていて、鉄鋼業が有名です。実際に「日本製鉄 名古屋製鉄所」に見学に行きました。その工場見学では、鉄を切断する場面や、高炉を見たりしました。製鉄所内では、90%の水、副生ガスのリサイクル100%とSDGsへの取り組みが多く行われていると感じました。名古屋製作所の見学で、自分たちの身の回りにある製品は大変な作業を行い多くの手間がかかっていることを改めて理解することができました。

名古屋分散研修では、大須商店街、テレビ塔などを回りました。大須商店街では、有名な「昔の矢場とん」と言うお店で味噌串カツなどの名古屋めしを味わうことができました。愛知の料理は、味噌を使った料理が多く、沖縄とは違う食文化を知ることができました。

加木屋中学校への学校訪問では、クイズなどを通して東海市・愛知県についてたくさんのお話を学ぶことができました。また、イントネーションの違いもたくさんあり面白かったです。短い時間での交流でも、仲良くなることができとてもうれしかったです。

他にも、沖縄との違いがたくさんあり、気温が沖縄と比べてとても低く寒かったです。また、紅葉などもとてもきれいでした。

今回、東海市交流に参加してみて、愛知県・東海市の歴史や文化、産業、食べ物などの様々な面で、違いや良さがあったりすることがわかりました。教科書の中では、わからないことを学んだり、体験することができてとてもよかったです。学年のみんなや後輩たちにも東海市の魅力を伝えていき、この交流をより深いものにすることが出来たらいいなと思っています。

また、体験したことを忘れずにしっかりこれからの人生や、学校生活などで生かすことができるようにしたいです。

東海市交流を終えて

コザ中学校 2年 仲宗根 星

今回、沖縄市の姉妹都市である、東海市と交流を行いました。今回の冬季交流では、東海市の文化を知ることができました。

まず、産業の面では東海市は、鉄が有名です。東海市には、日本製鉄の名古屋製鉄所があります。製鉄所の見学では、実際に高炉を見学したり、鉄の切断や産業、歴史、気候の違いなどについて学ぶことが出来ました。その場面を近くで見ることが出来ました。

名古屋製鉄所は、自動車やトラックなどには欠かせない、高品質な薄板製品を製造しています。名古屋製鉄所は名古屋港に面した臨海型製鉄所なので、高品質で日本の主要産業へのまた、SDGsへも多く貢献しているそうです。

つぎに、文化の面では大田まつりという山車を担いで町中を歩いたりする東海市の伝統的なお祭りです。そのお祭りでは、4種類の山車を見ることが出来て、それぞれの組が違ったものでとても面白かったです。

歴史の面では、数ある中でも、名古屋城が特に印象に残りました。名古屋城の金のしゃちほこは遠くからでも目を引くぐらいの大きさで城の存在感を際立たせていました。



食文化の面では味をつかった料理が多くあるのが印象に残りました。特に、大須商店街内にある、矢場とんというお店のローズ味噌串カツが、沖縄ではあまり味わえない味噌の味が忘れられないぐらい美味しかったです。また、二日目のお昼ご飯では、きしめんという愛知県発祥うどんがあり、私は、そのうどんを知らなかったので普通の麺とどこが違うのかな？と書いていたのですが、きしめんは普通のうどんの麺と比べて、滑らかで柔らかく、とても美味しかったです。

気候の面では、沖縄と比べて東海市は、とても寒くて乾いた風が吹いていました。沖縄は、年中暖かく空気が湿っているので、感じたことのない気候に最初はびっくりしました。

学校訪問では、広く知れ渡っている自動車の生産量や、東海市の有名な果物や、伝統工芸品をクイズを通して学んだり、レクなどをして交流を深めたりしました。また、東海市ならではのあるあるなどもしれて面白かったです。

この4日間で、最初は、仲良く慣れるか心配だったのと、緊張していたけど、東海市交流団のみなさんが歓迎してくれたので楽しく東海市の様々なことを学ぶことができました。また、この4日間で学んだことを活かして勉学に励みたいと感じました。

冬季交流で学んだこと

山内中学校 2年 西村 海琉

僕の学習テーマは、東海市の歴史や文化、方言などについてです。僕が特に興味を持ったのが歴史と文化です。愛知県東海市には平洲くんというマスコットキャラクターがいます。細井平洲という東海市出身の人がいて、2日目に平洲記念館という平洲先生について詳しいことがたくさん残っていました。一人一人に平洲記念館についての様々なクイズが乗っていて、班ごとに自由に探索して、クイズに答えていきました。また、実際に職員さんのお話を聞いてとても勉強になりました。東海市交流団の方々と交流して、名古屋弁という方言についても知りました。特に驚いたのは、尖った鉛筆のことを「とっきんとっきん」と言うことです。同じ日本でもこんなにもイントネーションや違う呼び方があるのだなぁと思いました。

次に気温、東海市の冬の気温はとても寒いです。まだ真冬ではないのに夜の温度が1度前後という沖縄では考えられない気温の低さでした。修学旅行で朝少しだけ白い息が出ただけでみんなはしゃいでいたのに、東海市では当たり前すぎて4日目で慣れてしまいました。こんなに寒いならもしかしたら雪が見れるかもと思っていましたが見れませんでした。残念です。学習テーマは歴史と文化、方言でしたが、他にも様々な魅力がありました。東海市と言ったら味噌カツ！！と東海市交流団の人が言うので気になっていたのですが、空港で食べた味噌カツは絶品で、とても美味しかったです。他にも、3日目の分散研修では、シャチホコが有名な名古屋城に行ったのですが、城の中に入ると、様々な装飾や屏風絵などがあり、とても勉強になりました。



駅に乗るときは切符の買い方がわからず、班の子たちに助けをもらいながら、なんとか電車に乗れました。電車の中には人がいっぱいいて、いわゆる満員電車と言うやつで、とても揺れて吊り革に捕まるのに精一杯でした。みんなで行った名古屋製鉄所では、職員さんのお話をきいて、実際に工場の中を回りながらいろいろな説明を受けました。特に、鉄鋼を切断して運ばれていくのを間近で見れたのは、とても貴重な経験になったと思います。また、自然もとても綺麗でした。沖縄は、紅葉や銀杏を間近で見ることがあまりなく、葉っぱも黒ずんだ茶色になることが殆どで、きれいな紅葉などを見て季節の移り変わりをはっきり感じる事ができました。沖縄にないものがたくさんある愛知県には、とても大きな商店街があります。沖縄にも商店街があるのですが、小規模な商店街がほとんどで、特に大須商店街にはとても驚きました。



そして最終日、名和中学校に行くたくさんの人達が暖かく迎えてくれました。フルーツバスケットなどのゲームをしたり、色々なことをして、とても有意義な時間になりました。帰りの空港では、東海市がとても名残惜しくなりました。でも、沖縄に着いて、沖縄市市役所につくと家族がおかえりなさいと迎えてくれました。僕は家族に冬季交流で体験したことや学んだことなどを話しました。

3日間付き添い交流した東海市交流団員の皆様にも東海市の魅力や色々な場所の案内などをしていただき、とても感謝しています。また、山内中学校の代表として今回の交流に参加できたことをとても嬉しく思います。これからも、姉妹都市として沖縄市と東海市の交流が続いていくことを願っています。

冬季交流を通して感じたこと

山内中学校 2年 上原果子

今回姉妹都市交流の一環として、愛知県東海市を訪れ、普段生活している環境とは異なる中で数日間を過ごした。街の雰囲気や人々の様子、気候など様々な違いを感じた。最初は大きな文化の違いに気付く場面が多くあったが、交流を通していくうちに小さな違いにも気付くようになっていった。

小さな気付きの中でも、私が特に印象に残っているのは【方言】である。実際に現地の人と話す機会が何度かあったが、私が想像していた「みゃあ」や「だがや」などの名古屋弁を耳にすることはほとんどなかった。愛知の人は方言を使うものだと思っていた私は、方言や言葉の違いに驚くよりも、方言が使われていないことに対してギャップを感じていた。

交流を通していく中で、若い世代は方言を使わないということがわかってきた。特に東海市は名古屋に近く、学校や日常生活の中で標準語に触れる機会が多いため、自然と標準語が出てきてしまうようだ。また、初対面の相手や県外から来た人に対しては、あえて方言を使わず相手に伝わりやすい話し方を選んでいるという話も聞いた。このことを聞いて、ただ方言が使われなくなったのではなく、相手や場面に応じて使い分けられているのだなと感じた。

今でこそ沖縄でも方言を話す人は減ってきているが、一つ一つの単語やイントネーションが県外と大きく異なるため、無意識に方言を使ってしまい、言葉が伝わらず困ってしまう場面が多くあった。だがこれは言い返せば方言が自然と出てしまうほど日常的になっていることなのではと気付いた。なので言葉の違いを壁と捉えるのではなく、それぞれの地域で育まれてきた言葉の良さだと考えることが大事だと私は思う。言葉は人との距離感や相手への配慮を表すものでその言葉は地域によって特徴があり、よさがあり、素敵なものであるがこの交流を通して、強く感じた。

同じ日本語であっても地域によって言葉の使われ方や意味合いが大きく異なることを実感した。だが、沖縄でも東海市でも相手を思いやる根本にあるものは同じである。どのような場面でも、違いを違和感で終わらせるのではなく、その物事の意図を汲み取り、理解へとつなげること。この大切さを交流を通して強く感じた。この気づきや経験を今後活かせるよう、人との関わりを大切に、学んでいきたいと思う。

冬季交流を通して感じたこと 美里中学校 2年 島袋 徳真

私は今回の東海市冬季交流で愛知県に行き、沖縄市との文化、産業の違いや、東海市の地域の特色、方言などを知ることができました。

東海市には学ぶべきことがたくさんあります。まず心に残った出来事は市役所職員によるお出迎えです。職員の笑顔と止まらない拍手に私は心の底から嬉しいと思いました。また歓迎の会でも、楽しいレクを考えてくださったり、初めて会うにも関わらず、笑顔で話しかけてくれる団員の皆さんの雰囲気がとても素敵でした。他にも、私達がバスに乗っている間、ガイドさんが日本製鉄所の紹介をテンポよくしてくださったり、大田まつりの歴史や山車の説明をしてくださったりと色々なところで東海市の皆様の優しさに触れることができました。これは東海市から学ぶべきことであり、私もそんな温かい心をもってみたいと感じました。

東海市の文化や産業について調べたことやわかったことはたくさんあります。まず、東海市と沖縄市の交流の歴史は37年で、その団員の中には冬季交流を通して、結婚した男女もいるそうです。すごく驚きました。同時にこの冬季交流は相手の事をよく知れる本当に大事な経験になると思いました。

また東海市にはモーニングの文化があることを知りました。実際に朝食ではトーストやフルーツ、ピーナッツなどが提供されどれもとてもおいしかったです。実際にコマダ珈琲は愛知県の名古屋が発祥ということも知りました。

日本製鉄所では、鉄の強度や成形性、耐食性など、他の素材にはない優位な特性を持っていることを知り、身近な素材だからこそ人々の生活の支えになっていることを改めて実感しました。そして地球温暖化などの環境問題を考えたしくみになっていることもわかりました。実際に鉄を切断するところを見ましたが、すごい迫力でいい経験になりました。

大田まつりの山車の見学では実際に山車の上に乗って中がどうなっているのかどれくらいの高さなのかを実感することができました。山車の重さや歴史、まつっている動物などの大田まつりについての説明も聞くことができました。

しあわせ村の大仏見学では想像以上の大きさに驚きました。向かう途中で見られる紅葉も沖縄市では見られないものなのですごく印象に残りました。昼食での挨拶も少し緊張しましたが、やり遂げることができました。暗くなりもみじまつりが始まると明かりで照らされた紅葉がより一層きれいに感じすごく印象に残りました。

一番詳しく文化について知ることができたのは、細井平洲についてです。東海市芸術劇場の見学、平洲記念館で平洲について深く知りました。東海市交流団員の皆さんは私達よりも平洲についての知識が多くあるので、東海市芸術劇場などの詳しい大人がいない調べ学習のときにたくさん教えてもらいました。平洲記念館では詳しい大人のスライドで面白く平洲の生まれた場所、年齢ごとに行ったこと、残した言葉などを知ることができました。班で挑んだクイズでも、平洲記念館で展示されている絵や昔使われていた道具、花の名前などを答え平洲だけではなく平洲記念館についても知ることができました。

名古屋分散学習では本当にたくさんの楽しいことがあり、東海市のパートナーから学ぶべきところもありました。まず駅と電車です。沖縄にはない初めての経験で緊張していましたが、最後まで問題なく乗ることができました。これは東海市のパートナーのサポートや気

遣いがあったからなので、やはり東海市は温かく、学ぶべきところがまだまだあるなと感じました。

他にも沖縄では数少ないアイススケートを体験し、滑り方や立ち方などを現地の人や東海市のパートナーから教えてもらったことや、動物園で私達沖縄市の人がいきたいお店、食べ物を嫌な顔せず、笑顔で受け入れてくれたりと本当に東海市の人たちには感謝の気持ちでいっぱいです。名古屋分散学習ではそれまでの交流より多くの発見がありました。そして東海市の良いところもたくさん見つけられました。

私達の班が見学することのできなかつた名古屋城の内装なども他の班との交流で見学したり、バスや部屋の中での会話、エイサー練習など、東海市の人たちだけではなく、沖縄市の人たちとの交流も大事にすることができて良かったなと思いました。

学校訪問では私達は加木屋中学校にいき東海市交流団の皆さんだけではなく、現地のたくさんの生徒たちと交流することができました。そこではクイズやダンス、ゲームなどの様々なレクで私達を出迎えてくださり、先生と生徒の仲もよく楽しく明るい雰囲気ですごく心地よい時間でした。中学校の校長先生や教頭先生も各クラスのレクの準備を待っている間、面白いお話をたくさんしてくださって、すごく楽しかったです。

私は今回の冬季交流で仲間とともに協力し合い、目標を成し遂げる力やみんなをまとめ楽しませる力、初めてのことに挑戦する力がつき、本当にたくさんの成長をすることができました。この成長は沖縄市、東海市の生徒の皆さん、エイサーの練習のときから私達を支えてくださった先生方、そして東海市の現地の人達のおかげです。本当にありがとうございました。

私は今回の冬季交流での様々な経験を、生徒会での行事の運営、部活のキャプテンとして部員をまとめるとき、クラスの級長でみんなの意見を聞いて一つの意見にするときなどに役立てたいと思います。そしてこの経験に誇りを持って将来につなげたいです。そして大事な思い出にしたいです。



東海市交流を終えて

美里中学校 2年 上原 梨夢

私は、今回の東海市冬季交流に参加し、沖縄市とは少し違う文化や、沖縄市との関わり方について、さまざまなことを学ぶことができました。

愛知県に着いてから、飛行機を少し出ただけで寒いと感じることが多く、初めての環境にドキドキしましたが、それ以上に楽しくてワクワクする気持ちのほうが大きかったです。東海市のみなさんと初めて会った会食では、初対面で緊張し、あまり話すことができませんでした。しかし、ご飯を食べながら話していくうちに、一番仲が良いのではないかと思うほど仲良くなることができ、お互いの余興を見て笑い合い、とても楽しい時間を過ごしました。

日本製鉄所は、広い範囲すべてに工場があり、驚くほど広かったです。また、24時間365日ずっと動いていると説明を受けて、本当か確かめたいと思い、ホテルの窓から見てみると、ずっと煙が出続けていて、本当に動いているのだと実感しました。

東海市立平州記念館に行くまでは、細井平洲と上杉鷹山の関係を知りませんでした。班でクイズを解いたり、資料を読んだりする中で、細井平洲が先生であり、上杉鷹山がその教え子であることを知ることができました。二人について学ぶことができたので、東海市立平州記念館に行けて本当によかったです。

大田まつりの見学では、実際にお祭りで使われる山車を見ることができました。とても大きく迫力があり、上に乗らせてもらったときは高さもありました。とても重そうで、持ち上げて回転させるのは大変だろうなと思いました。

名古屋城の見学では、首里城よりも高さがあり、金のシャチホコがとても印象的でした。実物を見ると、迫力がすごくて、本物はすごいなと思いました。

東海市交流の中学生との最後の食事では、最初とは比べものにならないほど、みんな仲良くなっていました。どの席からも笑い声が聞こえ、これが最後の会話になると思うと、とても悲しかったです。この人数で集まる機会はなかなかなく、「一期一会」という言葉が一番合っていると感じました。今回の東海市交流に参加できて、本当によかったと思いました。

このような貴重な交流の機会をくださり、ありがとうございました。今回の交流で得た知識を、これからの学校生活にも生かしていきたいです。

東海市交流事業を通して

沖縄市立美東中学校 2年 仲間大翔

皆さん、こんにちは。美東中学校2年の仲間大翔です。これから、東海市交流の感想について話します。皆さんは東海市交流どうでしたか？僕は、言葉に表せないほどとても楽しかったです。僕は、親から東海市交流に学校代表で行けるよ。と伝えられたとき、それって何？行こうかな？などの緊張や不安などがありました。又、余興練習の時の集まりの時も中々友達が作れず緊張に包まれていました。でも、徐々に皆と仲が深まりエイサーの練習も楽しくなりました。出発の一週間前くらいからは、東海市交流まで残り何日と数えるほど楽しみに待っていて、前日になると寝むれないほど楽しみでした。当日は、朝のバスから皆盛り上がりワクワクしていました。

東海市に到着すると、気温、景色、喋り方などの沖縄市とは違う点にたくさん気づき、たくさんの驚きがありました。東海市に到着すると東海市役所の方や加木屋中学校の先生方などの温かい拍手で迎えられて楽しく明るく接することができました。

沖縄との違いの中で、特に食文化に大きな違いがあることを感じました。2日目の昼ご飯と3日目の分散研修で食べたきしめんがとても美味しくて親しみを感じたことを覚えています。後で原材料を調べたら、きしめんの麺にはそば粉ではなく小麦粉が使用されていることを知り、僕ら県民が食べる「沖縄そば」に似ているなど学ぶことができました。沖縄の給食でも「沖縄そば」が提供されるように、東海市の給食でも食べられていることを知りました。東海市に参加する前には、学校の友達から愛知は「矢場とん」や「味噌カツ」が有名と聞いていたので食べてみると今までとは違うカツがとても美味しくびっくりしました。又、東海市はトマトが有名ということを知り、「ルネッサンストマト」「ファーストトマト」など通常丸い形のトマトではなく変わった形のものが栽培されていることを知りました。学校の技術でもトマト栽培を行っていて、トマトの特徴や栽培方法を学んできましたが、今回の経験から生産量や出荷先についても深く興味を持つことができました。

名古屋製鉄所の見学や名古屋城の歴史などについても学びました。名古屋製鉄所では普段身近に使っている車やガードレールなどもこの名古屋製鉄所で使われている鉄が使われていると聞いてびっくりしました。名古屋製鉄所では、何に鉄を使っているか、実際に鉄を切る様子、何で作っているかなどを説明しながら実際に見ました。事前学習では愛知県には世界を代表する自動車メーカー「TOYOTA」があります。自動車づくりにおいても金属の品質は重要で、日本を支える産業を目の当たりにし、愛知県の凄さを感じるとともに沖縄県にもこのような日本を代表するような産業ができるべきであるとも感じました。

学校観光交流では、最初は友達できるかの不安や何をするのか緊張していましたが、何名かに「空手の演舞をやった人だよ」と声をかけてもらい緊張がとけました。又、

加木屋中学校さんが東海市についての発表やゲーム作ってくれていたのだからみんな話したりして仲が深まりました。

ここからは、僕の心に残っていることについて話します。名古屋城、名古屋製鉄所、食文化、東海市の生徒などの魅力はもちろん感動しましたが、僕は部屋での思い出が特に強く残っています。具体的には、友達と将棋を指したりラーメンパーティーをして盛り上がったことがいまでも忘れられないです。

最終日には、皆もう沖縄に帰るのかと寂しい気持ちでした。僕もそう思いましたがさよならとは言わずまたいつか会おうと思いました。沖縄に帰って家族、親戚、友達などに東海市について伝えました。僕達の代で37回目の交流なのでこれからの次の代へと受け継げたらなと思いました。最後になりますが今回関わってくれた皆様に感謝申し上げます。この思い出は絶対に忘れません。また、いつか東海市に行きたいです。

東海市交流事業を通して

沖縄市立美東中学校 2年 宮里 璃紅

私は東海市交流を通して、沖縄ではできない日本製鉄の工場見学や、東海市・愛知県の食文化や歴史をより詳しく学ぶことができました。

食生活の中で少し驚いたことは、喫茶店が多く、東海市民や愛知県民の日常生活の中に親密にあるということです。沖縄では、喫茶店が日常生活の中に親密にあるわけではなく、東海市での暮らしを体験する中で、朝ごはんをチェルシという喫茶店で食べたり、東海市や愛知県を移動しているときにも喫茶店が多く目に入ってきて新鮮に感じました。また、喫茶店のメニューでもモーニングというドリンク代を払うだけでトーストや果物などがついてくる沖縄ではない文化に驚きとおもてなしの文化を感じることができました。

名古屋での分散研修や1日目の昼ご飯には愛知県の郷土料理である味噌煮込みうどんやきしめんを食べて、東海市の中学生とも給食にもきしめんや味噌煮込みうどんが出てくると話してくれたり東海市と沖縄の食文化の違いを学ぶことができました。

また、日本製鉄の工場見学では、現在の日本製鉄になるまでの歴史や何を作っているか、それらは主にどこで使われるかなどを工場見学する前に学び、工場見学ではどんなところや機械で鉄を作っているのかや、どんな状態で売っているのかなど実際に見て、学ぶことができました。日常生活でよく使っている鉄でもここまで詳しく調べたことや、実際に作っている途中の鉄や切る作業をしているところなどを見たりすることをしてこなかったのが、貴重な体験をすることができて、また、この工場見学をする前よりも鉄への興味が深まり、いい経験だったなと思いました。

学校間交流では、学校に行く前はちゃんといろいろな人と交流ができるかや、楽しめるかが不安でとても緊張していましたが、加木屋中学校の中学2年生がクラスごとでそれぞれ私達沖縄の交流団員を楽しませるために、愛知県や東海市についてのスライドを発表してくれたり、イントロクイズなどのゲームを用意してくれたことに前々から用意してくれていたことのありがたみを感じ、加木屋中の方々も明るく接しやすい雰囲気を作ってくださったおかげで緊張がとけ、楽しみながら愛知県や東海市についても知らなかったトマトのことや名古屋城のことなどを学ぶことができました。学校間交流ではクーラーだけじゃなく、暖房もついていることに驚きました。

東海市の市役所や学校など、どこを訪問したときにも拍手をして暖かく迎え入れてくれ、緊張していて静かになっていたときにも話題を振ってくれたおかげで明るい雰囲気楽しく話すことができました。その話す中でイントネーションだったり方言だったりの話になり、イントネーションが違う言葉が多くあり、話してて学びにもなり、新鮮に感じ沖縄と東海市のイントネーションや方言をそれぞれ教え合いながら加木屋中の校長先生や目上の人に対しての話し方や接し方も学びながら実践することができ、良かったなと思いました。沖縄市との違いや歴史などを学ぶだけではなく、沖縄市の学校代表の一人

としてや目上の人に対しての振る舞い方や礼儀、行動などを意識しながらなにかをやることもいい経験であり、身につけたことを忘れず今で意識しておくことで受験の際の面接や、大人になったときでも使い、この経験を活かしていきたいです。

東海市交流 感想レポート

安慶田中学校 2年 安里 奏大

私は今回の東海市交流会を通して、主に4つのことを得ることができたと思います。1つ目は沖縄と東海市の天候や観光業、産業や生活の違いです。沖縄市は天候は亜熱帯で観光業は亜熱帯ということを生かした亜熱帯ならではの動植物や沖縄独自の文化を生かしたものが多いですが、東海市は太平洋岸気候に属し、年間を通して温暖で四季の変化が明確です。観光業は四季を楽しめるスポットや平洲記念館などの歴史を学べる場所が多い印象でした。他にも産業では沖縄は漁業、東海市は鉄鋼業が盛んで生活面では、沖縄は車社会だけど、東海市は電車も通っているのでそこまで車が必須というわけではなく比較的気軽に旅行や遠出ができます。このように沖縄と東海市の様々な違いを学びました。

2つ目は物理的な距離があつたり文化に違いがあつても人と人は友だちになれるということを知りました。東海市と沖縄は約1800kmの距離がありますし、さっきあげたように文化にも大きな違いがあります。ですが私は今回の東海市交流会を通じて東海市の人と3泊4日という短い時間にかかわらず心の距離感はすぐに縮まり、友達になれただけでなく、一生物の思い出も作ることが出来ました。このように人と人はどんなに物理的距離があろうが文化に違いがあろうが本当に仲良くなろうとしたら、心の距離はすぐに縮まり、誰とでも友達になり色々な思い出を作ることができるのがわかりました。

3つ目は今回の東海市交流会に参加しないと出来なかった沖縄や東海市の友達です。私は、さっきあげたように学ぶだけでなく東海市交流会に参加しないと出来なかった人間関係があつたのも東海市交流会に参加して良かったことだと思っています。沖縄市の交流団員たちとも本来なら学校も違うし会うことがなかっただろうけど、今回の東海市交流会に参加することで交流団員たちと仲を深めてみんなで遊びにいたりすることもできるようになりました。東海市の人とも本来は会うことがなかったけど東海市交流に参加したことで、仲を深め楽しい4日間を一緒に過ごすことが出来ました。このように、東海市交流会に参加しないと出来なかった人間関係も東海市交流で得たものの一つだと思っています。

4つ目は、東海市交流会に参加しないと出来なかった思い出です。私は、様々な学びを得ましたけど、やはり一番東海市交流会に参加して良かったと思ったのは3泊4日間

で様々な思い出を作れたことです。一日目は歓迎の会でのミニゲームやエイサーで楽しくみんなの仲を深めれたし、二日目は普段はなかなか見れない日本製鉄や大田まつり山車蔵を見学できたり、聚楽園の大迫力の大仏や芸術劇場や平洲記念館で東海市の歴史について学んだりしました。三日目の名古屋分散研修では、私達はとても綺麗で圧巻の名古屋城を見たり、大須観音でお参りをしたり、東海市で有名な味噌煮込みうどんを食べたりしました。四日目の、学校間交流では名和中学校の人たちと楽しいミニゲームをしながら仲を深めれたし、合唱が有名な名和中学校の合唱を聞くことも出来ました。

このように、今回の東海市交流の4日間では、様々な思い出を作ることが出来ました。東海市交流では主にこれらの4つの事を得ることが出来ました。これらの事を私は、学校の人や家族に広めてみんなに東海市の魅力を知ってもらったり、機会があったらまた、東海市に行こうと思いました。他にもこのような県を代表してなにかすることや生徒会、検定などの少し参加するのが緊張したり、「自分より適任がいるから」とやらなかったりすることにもこれからはもっと積極的に参加して自分の人生を豊かにしていこうと思うことが出来ました。また、東海市交流会が沖縄市と東海市の仲を深めていることを理解し、このような交流会の大切さを身にしみて理解することが出来ました。

東海市交流

安慶田中学校 東恩納 愛紗

私が東海市に行くことが決まって、最初は楽しみよりも緊張や、不安が先走っていましたが、7月の東海市交流や、東海市に行くための事前学習を経て緊張などが和らいでいき、もっと東海市について調べたい、早く東海市に行きたいなどの意欲がだんだん高まってきました。

いざ東海市に行くと自分が想像していたよりも、沖縄と環境が違い、市長や議員、東海市の学校代表の人と会うのが楽しみになりました。会食では、東海市の学校代表の人とたくさん話しをしたり、沖縄の伝統文化の1つのエイサーを披露しました。他にもセブンイレブンじゃんけんをしたり、一日でとても仲が深まり、東海市交流の中で特に印象に残っています。

名古屋製鉄所はとても大きく、900℃～1200℃の鉄を切っている所を見ました。その場にいるだけで、冬なのに半袖でもいいぐらいに暑かったです。

また、私は東海市の有名なものはエビと、車しか知りませんでしたが、今回の交流を通して手羽先や鉄が有名だと知り他にも聚楽園公園のもみじまつりや、東海市キャラクターのモデルになった、細井平洲先生のことをしれました。

今回の東海市交流を通して、沖縄と違うところや似ているところをこの目で見てじっくり比べられる体験が、これから二度とない様などとても楽しく、とても良い思い出に残っています。

また、これからの東海市の事後学習では、今回東海市交流を通じた上で知ったことがたくさん増えたので、このいつまでも記憶に残る思い出をしっかりと市長や他のみんなに伝えられるように努力をし、来年東海市交流に行く後輩たちにもこのとても楽しい出来事を話して、来年に活かして行きたいです。

最後に、人生で一度しかないこのメンバーだからこそ、とても個性が溢れて面白く、楽しい思い出ができてとても、に嬉しいです。



冬季交流を通して感じたこと

宮里中学校 2年 當眞 結嗣

僕は沖縄市交流団員として、沖縄市と東海市の違いや東海市の産業や文化について知り、自らの知見を広げることを目的として交流しました。最初は、沖縄市の交流団員の方々ともお互いのことをあまり知らず喋ることができなかつたり、慣れない環境だったので、とても緊張していましたが、役所の職員の方々が温かく出迎えてくれたり、その夜の食事会で東海市の交流団員たちが積極的に話しかけてくれて、少しずつ緊張がほぐれ、交流期間を快適に過ごすことができました。僕が東海市を訪問して学んだことは4つあります。

まず1つ目は自分から積極的に話しかけに行くことの大切さです。それがわかったのは、一日目の東海市の交流団員との食事会と四日目の学校訪問です。一日目の東海市の交流団員との食事会では人見知りで喋りかけに行くことができませんでした。しかし、東海市の交流団員が先に話してくれて、話がどんどん盛り上がり、とても楽しい時間を過ごすことができました。四日目の学校訪問では、知らない人がたくさんいて緊張していましたが一日目の反省を思い出して自分から話しかけに行くことで、相手も話してくれて緊張をほぐすことができました。

2つ目は、東海市と沖縄市の産業の違いです。総合の時間の事前学習の際に東海市と沖縄市の産業を比較し、名古屋製鉄所がどれだけの鉄をつくっているのか、製鉄所の規模について学びましたが、実際に製鉄所に訪れてみると、予想していたものよりもはるかに大きく、とても驚きました。話を聞くと製鉄所の面積は約632万平方キロメートルでナゴヤドーム、131個分の大きさがあるそうで、従業員数は関連企業を含めると一万人以上にも及ぶそうです。バスの車窓からは巨大なクレーンが何台も見えたり、巨大な工場を部署ごとに行き来するために専用のバスが工場を走っているなどそういったことから名古屋製鉄所の大きさを実感しました。



また、ガイドさんの話から名古屋製鉄所の地元の住民の方々への配慮を学ぶことができました。工場内の地面が雨も降っていないのにどこも濡れていてなぜなのか不思議に思っていたのですが、ガイドさんの話によると地面を濡らすことで工場内のちりが近くの住宅地などに飛ばないようにしていると知りました。さらに、敷地内の体育館や運動場も市民が使えるように開放していて、名古屋製鉄所は地元の人々へさまざまな配慮や貢献がすごいと思いました。さらに、工場内にたくさんのお木を植えていたり、工場からの煙などを吸収するために工場と住宅地の間に森を作るなど、しっかりと環境対策まで行われてここまで環境や住民のことを思った工場は他にないなと思いました。他

にも名古屋製鉄所では僕が沖縄市交流団員としてあいさつをしました。それまであまり人前で喋ったりすることができなかつたのですが、沖縄市交流団員代表としてあいさつをすることで、多くの人の前で喋ることへの苦手意識がなくなったり、挑戦する勇気が身につくなど、さまざまな成長と学びがありました。

3つ目は文化の違いです。文化の違いは東海市交流団員との交流や名古屋分散研修で感じることができました。例えば駅で改札を通るなど沖縄では体験できない文化についても触れることができました。東海市交流団員との交流や名古屋分散研修では文化の違いを感じた一方で沖縄との共通点についても感じることができました。その一つが山車です。最初、事前学習で山車について調べたときには、あまり馴染みが無く、読み方を勘違いしていました。二日目に山車蔵を見学してみて、山車について学び、地元の人たちが山車という文化を大切に守ってきたかわかりました。沖縄にも道ジュネーなど地元の人達、青年会が大切に守ってきた文化があり、どこの地域でも自分たちの文化を大切に受け継いでいるということを知ることができました。

4つ目は名古屋分散研修で見学した名古屋城の歴史です。沖縄の城というと高さがなく、横に広がっていますが、名古屋城の天守閣は55.6メートルの高さがあり、とても驚きました。また、見た目だけではなく名古屋城ができた歴史にも驚きました。名古屋城はもともと愛知県にあった清洲城という城が水害の危険性があるため、作られた城で、徳川家康の命令によって作られました。築城は主に北国や西国の大名が担当し、天守閣の石垣は石垣づくりの名人の加藤清正が担当しました。自分が訪れた城にそんな深い歴史があると知って感動しました。

僕が冬季交流で学んだことの中で今後の学校生活に活かしていきたいことは積極的に話しかけていくということです。お互い初対面で緊張するときでもどちらかが積極的に話しかけに行くことで、話が盛り上がり、楽しい雰囲気を作ることができると思うからです。もう一つは人前で発表をすることです。東海市交流の前まで人前で喋ることが苦手だったのですが、製鉄所での挨拶を通して人前で



喋ることへの苦手意識が薄れました。今後の学校生活では、授業などで自分の考えを他の人に伝えることをしていこうと思います。東海市交流を通して僕は人前で喋ることへの苦手意識が薄れたり、沖縄市と東海市の文化の違いなど多くのことを学ぶことができました。このような貴重な体験をサポートしてくれた沖縄市、東海市の方々、先生方本当にありがとうございました。

冬季交流を通して感じたこと

宮里中学校 2年 新垣 穂乃

今回の東海市交流では、東海市のパートナーの方々との交流や学校訪問、社会見学、名古屋分散研修などを通して、多くのことを学ぶことができました。交流を通して最初にしたことは、文化や生活の違いだけでなく、話し方やイントネーション、言葉の使い方にも違いがあることです。同じ日本に住んでいても、地域によって雰囲気異なり、その違いを知ることがとても新鮮でした。また、このような違いがあり、最初はとても不安でしたが、交流を進めていくうちに打ち解けることができました。このとき、相手の話をよく聞き、理解しようとする大切さを改めて感じる事ができました。

学校訪問では、授業の様子や学校生活を見学しました。特に印象に残っているのは、沖縄の学校と比べて生徒の人数が少なかったことです。人数が少ないことで、生徒同士や、先生との距離が近いと感じました。また、生徒が自分の意見をはっきり伝え、相手の意見を聞く姿が見られて、授業に前向きに取り組みかつ、仲間との絆が深い学年だと感じました。そして、馴染めない私のことも仲良く交流してくれて、名和中の生徒のように接してくれたことで、学校訪問を楽しく終えることができました。

社会見学では、名古屋製鉄所や平洲記念館を訪れました。製鉄所では、鉄が私たちの生活を支えてくれる大切な材料であることや、安全や環境に気をつけながら作業が行われていることを知りました。また、特に驚いたことは、近隣住民に迷惑がかからないような取り組みを行っていたところです。水をまくことで砂などを住宅地に飛ばさない工夫をしていて、町と共存することができる素晴らしい工場だと感じました。そして、働く人たちが責任を持って仕事に取り組んでいる姿を見て、仕事の大切さや大変さを感じることができました。平洲記念館では、細井平洲さんの歴史を分かりやすく回れるような工夫がされていて楽しく学習することができました。また、地域の歴史や人々の努力について学び、今の生活は当たり前じゃないことに気づきました。



名古屋分散研修では、名古屋を代表とする名古屋城や、大津商店街などたくさんの観光地を班で協力しながらまわることができました。名古屋城では、東海市の交流団員が名古屋城のガイドをしてくれてとても勉強になりました。また、沖縄では見たことない生け垣やシャチホコなどを見ることができて文化の違いにも気づきました。大津商店街では、たくさんのお店やお土産屋さんなどがあり、なかでも食べ歩きをしながら歴史のある商店街を見て回るのが楽しかったです。電車の乗り換えがうまくいかなかったり、予定どおりに進まない場面もたくさんありましたが、そのたびに班のメンバーと協力して話し合い、予定を立て直したりしました。1度電車に乗り遅れて帰れなくなりそうとき

班のメンバーが電車の時間を調節して無事帰ることができ、協力することの大切さを実感しました。この活動を通して、自分から意見を出すことや、周りの意見を聞くことの大切さを実感できました。

今回の東海市交流を通して、新しく出会う人や、環境に対しても、前向きに関わろうとする気持ちが強くなりました。心に残っているのは、人との出会いや体験が、自分の考え方を広げてくれるということです。これからは、この経験を学校生活に生かし、授業や行事に積極的に取り組んでいきたいです。また、将来に向けて、地域や社会に向け、周りと協力できる人になりたいと考えています。今回の東海市交流で学んだことを、これからの生活につなげていきたいです。

東海市交流 感想レポート

沖縄東中学校 2年 久田 一汰

私は、今回の3泊4日の東海市交流に参加して、沖縄では体験できないような様々な経験ができてとても良かったです。

市長さん、議長さん、教育長さんなどの代表者の方々からこの交流について教えていただきそれだけ歴史の長い素晴らしい交流だということをよく理解し、立候補して良かったと、今一度思いました。

夕食のときに、今回東海市側の代表となった東海市交流団員の皆さんと合流し食事をご一緒させていただき、東海市側の人たちが用意してくださった余興をして互いにまじえて大変楽しませていただきました。私達が用意したエイサーを東海市の皆さんに気に入ってもらえたようで良かったです。

東海市の皆さんと一緒に名古屋製鉄所と平洲記念館を訪れ、大田まつりの説明や山車というお祭りで使用する神輿のような物の体験をしました。名古屋製鉄所では実際の製鉄の様子や製鉄所の敷地の中にある様々な施設や機械、炉の一部などを見せてもらいました。どれも沖縄にいたら拝むことができないようなその規模の製鉄所の景色に感銘を受けました。その後訪れた平洲記念館では東海市の偉人である平洲という方の人生や教え、その弟子や教え子の上杉鷹山といった人たちについての説明などをクイズ形式で教えていただきました。私が平洲記念館で一番驚いたのは第35代アメリカ合衆国大統領でジョン・F・ケネディ元大統領の尊敬する方が上杉鷹山公だったということです。大田まつりの山車がある場所では、まず大田まつりがどのようなまつりなのか説明を受けました。まつりで使用される山車は5tあり、実際に他の交流団員の人たちと持ち上げてみましたがとても重かったです。その後は本来は登れない山車の上に登らせてもらう体験などもさせてもらい、とても楽しくて良かったです。どの施設の皆さんも説明が丁寧で優しく、親切な方が多くすばらしかったです。また、夕食で食べた、木こり家というお店のハンバーグが絶品でとても美味しかったです。今度愛知に訪れる機会がありましたら、今度は家族と一緒にまた食べたいです。

名古屋城の中は装飾がとても凝っていて、生き物の絵に関しては現代やヨーロッパなどで描かれる動物とはまた違った描き方で、文化の違いや昔の人達の表現の仕方に感動しました。大須商店街は沖縄の商店街とは変わった雰囲気があり、とても人も多く活気のある場所でした。私はそこの商店街で昼飯にラーメンを食べ、その後は食べ歩きをしながら、商店街の中を回りました。商店街はかなり広く、飲食店が並んだ場所もあれば、服やメガネが並んだ場所、お土産品が並んだ場所、ガチャガチャなどの娯楽店舗が並んでいる場所、タピオカやアイスなどの歩きながら飲み食いできるお店が並んだ場所など、多種多様なお店がたくさん広がっており、びっくりしましたが、とても楽しかったです。ご飯も美味しかったです。その後は科学館に行きました。そこには身近にある物や自然現象の仕組み、錯覚などの不思議な現象の名前や解説、人体を構成する筋肉や骨、神経の詳しい説明がありました。私がこの施設で一番面白かったのは、地震計測の

機械の仕組みのエリアと、夕暮れの現象を観測できるエリアです。両方とも聞いたことはあったのですが、実際に見てみると本で見たりするのはまた違った素晴らしさがあったんです。科学館の次は熱田神宮を訪れました。熱田神宮はかなり大きな神社で伏見稲荷大社の鳥居と同じくらい大きな鳥居がありました。境内も参道がしっかり整備されていてとてもきれいでした。私達も実際に参拝したあとはおみくじを引いたりお守りを買ったりしました。私は健康祈願のお守りを買っておみくじを引き、結果は小吉でした。各々結果が分かったあとはおみくじを紐に結びつけて参拝は終わりました。自分は神社や寺が好きな方なのでとてもワクワクして楽しかったです。そのあとは近くの駅前の店でお土産を買いました。かなりお金を使ってしまったと自分でも強く思いました。その日の夕食は、一部中学校の皆さんとはこの時間が最後の時間で、一緒に行動してくれた人たちとはお別れになるということで少し悲しかったですが、その分皆さん楽しく飲み食いして別れを惜しむ暇もないくらい楽しかったです。たくさん食べる人もいれば、残り物でじゃんけん大会をしている人たちもいました。この交流ではご飯もそうですが飲み物がとても美味しく特にオレンジジュースが超がつくほど美味しく何度でも飲める味でした。

名和中学校は元気と活気の2つを持ち合わせた学校で、生徒と先生の中が良く元気もあるとても素晴らしい学校でした。名和中の皆さんの出し物も素晴らしく、私が入ったクラスでは沖縄で言うフルーツバスケットと類似したゲームやカードゲームをしました。皆さん信頼しあっており、とても良かったです。そして、体育館に戻ると最後の出し物として名和中学校の生徒さんたちの合唱がありました。それを聞いて私はすごく感動しました。男子女子関係なく生徒全員が全力で、そしてきれいな歌声でリズムよく歌っていて驚きました。合唱が終わると全体写真を何枚か撮って最後の交流は終了しました。その後は加木屋中学校との交流員のお迎えに行き、その後は空港に行きました。空港ではお土産とお昼ご飯の時間があり、私はお土産を買ったり追加したりしました。みんな合流したあとは保安検査場をとおる搭乗口に向かい、少し待ったあと飛行機に乗りました。飛行機の中では、友達と話したり、景色を見たりしていたら沖縄につきました。那覇空港到着後はバスで沖縄市役所まで行きました。市役所についたら親が迎えに来ていてそのまま家に帰りました。

私は今回の東海市交流に立候補し、参加してとても良かったと強く思いました。東海市と沖縄市の交流が長く続いてくれるといいです。そして愛知にまた行く機会があったら東海市の皆さんともまた会いたいですし、行きたい場所も増えました。東海市の皆さんの優しさはとても素晴らしく、私も見習うべきだと思いました。また、この経験を活かして、これから出会う色々な人にやさしくでき、交流できる人になりたいですし、役所の役員のような地域の人々に寄り添う仕事をしたいです。

東海市交流を通して感じたこと

沖縄東中学校 2年 名城 陽毬

私が東海市交流に参加しようと思った理由は、修学旅行だけでは感じられない沖縄とは違う自然や街並み、気候などの様々な違いを体験してみたいと思ったからです。

私はこの4日間で、東海市の文化や自然などいろいろなことに触れることができました。

はじめに到着した中部国際空港では、飛行機から降りると空気がひんやりとしており沖縄とは違う体験ができました。その後は、市役所表敬訪問や東海市からの歓迎の会があり、東海市の方々から温かさを感じました。東海市役所を訪問するときには、バスの後ろの方に乗っていてもわかるくらい盛大な歓迎をしてくださいました。東海市の市長さんと議長さん、教育長さんにお会いするという貴重な体験になったし、この4日間の学習は沖縄市の代表で来ているんだという責任を改めて感じました。歓迎の会では、東海市交流団員と合流し、私達のパートナーのえみさんとれおさんといっしょに夕食を食べました。緊張していたけど、れおさんやえみさんがたくさん話を振ってくれたので徐々に緊張を解くことができ、加木屋中学校の方々からレクをしてくれ、交流団のみんなと短い期間だけど仲良くなれそうだなと思いました。

交流学习では、名古屋製鉄所や大田まつりの山車(だし)、聚楽園大仏、平洲記念館などを見学しました。名古屋製鉄所は、特産品である「鉄」を作っており、実際に使われていたマンテルや鉄を切るところを見学しました。説明もわかりやすく、工場に行く機会がないのですごく勉強になりましたし、鉄を切るところを見学することはあまり体験できないので実際に肌で感じてみてとても迫力があり良い経験になりました。大田まつりで使われる山車の見学では、実際にまつりに参加している方々にどのような歴史があるのか説明していただいたり、山車を挙げたり、登らせていただいたりして貴重な体験がたくさんでき、沖縄とは違う文化に触れられて良かったです。聚楽園大仏は、夏季交流の際に横須賀中学校の方が紹介してくれて、今回実際に見てみると髭があることに気が付きました。沖縄には大仏はないのでとても迫力を感じられました。また聚楽園大仏に行くまでの道で、紅葉を見ることができ、これも沖縄では感じられないものなのですごく嬉しかったです。東海市の偉人である細井平洲さんについて、東海市芸術劇場や平洲記念館で学ぶことができました。東海市芸術劇場では山車についてや、偉人たちについてのことを知ることができ、平洲記念館では平洲さんについての問題をグループで協力して解くことができたので、仲も深まったし楽しく勉強することができました。

分散研修では、大須商店街や名古屋市科学館、熱田神宮に行き、沖縄にはない電車や、いちょうを見ることができました。電車は初めてだったので切符の買い方なども教えてもらいました。大須通では楽しく食べ歩きができ、名古屋市科学館では、暮らしのことや体についてのこと、動物や水、電気などいろいろなことを見学できました。熱田神宮では、お参りやおみくじなどをしてみんなで楽しく1日過ごすことができました。お土産は「あつたnagAya」というところで東海市の特産品でもあるえびせんべいや名古屋

で有名な小倉トーストのお菓子、熱田名物のきよめ餅を買いました。その日の夕食で加木屋中学校と名和中学校以外の団員とはお別れで少し悲しい気持ちがありましたが、みんなで過ごす最後の時間だったので思い出話をたくさんして、仲をより深めることができました。私は、お別れの挨拶を担当していて緊張していましたが、賑やかな雰囲気です緊張が自然とほぐれて心から楽しめました。

学校訪問は名和中学校に行き、学校紹介やクラスでレクをしたり、全員での合唱を見せてくれました。クラスでのレクで、沖縄に知り合いがいる人が何人かいたので世界は広いなあと思いました。合唱では男子も女子もきれいな歌声で、声もよく出ており、すごく一人ひとりが真剣な姿で歌っていたのでとても感動しました。その後は、加木屋中学校を訪問していたメンバーと合流し、空港に行き昼食を食べたり、お土産を購入したりしました。飛行機では、いちかさんとほのさんと、少しですが、この4日間の思い出話をしました。那覇空港に着き、バスに乗って市役所まで帰りました。

この4日間私は、市長の方々に挨拶をしたり、名古屋製鉄所内の見学、大田まつりの歴史や、山車に登るという貴重な体験をさせていただきました。さらに、沖縄にはない大仏や紅葉、いちょうを見たり、東海市の偉人の細井平洲さんについて詳しく聞いたり、分散研修で名古屋科学館や熱田神宮に行くなどたくさんの場所を巡りました。人生初の電車に乗れたときは興奮が止まりませんでした。今回の交流を通して色々な人と関わる力や、沖縄以外の歴史や文化を深く知れたので、交流を今後も続けてほしいと思いました。また、この経験を活かして今後の進路ややりたい職業を見つけていきたいです。



東海市沖繩市中学生冬季交流事業を終えて

引率教諭 越来中学校 野島 隆太

東海市に到着後、生徒たちは吐く息が白くなる様子に驚きと感動を示し、沖縄とは大きく異なる気候を実感していた。現地の空気や寒さを肌で体感することは、地域の特徴を理解する貴重な機会となった。その後に参加した表敬訪問および歓迎会では、公的な場での立ち居振る舞いやあいさつの重要性を意識し、任された役割を果たそうとする姿が見られた。東海市職員や交流団の温かい迎え入れに触れる中で、生徒たちの緊張も徐々に和らぎ、交流の意義を感じながら、前向きな雰囲気生まれた。

翌日は、日本製鉄工場および大田まつり山車蔵等を見学し、東海市の産業と文化に直接触れた。製鉄工程の迫力ある作業や、山車蔵に受け継がれる地域の伝統を通して、教科書だけでは得られない技術や人々の思いに強い関心を示していた。さらに、「沖縄で有名な祭りは何か」「どのような工場が有名なのか」といった問いを通して、互いの地域について語り合い、地域理解を深めていく様子が見えられた。

三日目は、名古屋市内で分散研修を行い、東海市交流団が計画したルートを利用した公共交通機関を利用して巡った。「電車の移動が初めてでドキドキした」といった声や、「きしめんの食べ方を教わった」と笑顔で話す様子も見られ、地域文化に触れる喜びを実感していることがうかがえた。また、今回の分散研修は、生徒同士が相談しながら行動し、自ら学びをつくり出す経験として大きな意義があった。研修を終える頃には、自然に声を掛け合い、互いに打ち解け合う様子が見られ、交流の深まりを実感できる一日となった。

最終日は、加木屋中学校および名和中学校にて学校間交流を行った。クイズやレクリエーション活動を通して、楽しみながらこれまでの見学や体験を振り返る場面が多く見られた。お別れ式では、「もう少し一緒に過ごしたい」と名残惜しそうに言葉を交わす姿や、手紙を書いて思いを伝える生徒もおり、短期間であっても心の距離が大きく縮まったことがうかがえた。本交流事業は、生徒にとって非常に実り多い四日間となった。

本事業の実施にあたり、多大なご支援をいただきました沖縄市ならびに東海市の関係者の皆様をはじめ、本事業にご協力いただいたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

写真でみる交流の記録



名古屋城にて

夏季交流の様子

6月3日（火）美里中－富木島中



6月10日（火）美東中－加木屋中



6月17日（月）美里中－上野中



6月18日（火）宮里中－富木島中



6月20日（木）越来中－平洲中



6月25日（火）安慶田中－横須賀中



冬季交流の様子

事前学習会(余興練習)



12/5(金)

出発式(沖縄市役所にて)
歓迎式(中部国際空港にて)



12/5(金)

東海市長表敬訪問(東海市役所にて)





12/5(金)

歓迎の会



12/6(土)

日本製鉄工場見学

太田まつり山車蔵見学





12/6(土)



平洲記念館見学 しあわせ村大仏見学





12/7(日)

名古屋分散研修①





12/6(土) 名古屋分散研修②





12/7(日)
夕食・おわかれ式



12/6(土) 学校訪問



越来中、コザ中、美里中、美東中⇒加木屋中学校へ

山内中、安慶田中、宮里中、沖縄東中⇒名和中学校へ



12/8(月)

見送り(中部国際空港にて)

解散式(沖縄市役所にて)





R8/1/29(木)
事業報告会・解団式

